

テーマ5 「遊び」と「友だち」

【ねらい】

子どもの遊びや友だちとの関わり方で気になることを交流し、子どもの個性や特質を理解した上で、親としてどのように関わるのが子どもの成長にとって大切なのかそのポイントを学ぶ。

【活動の流れ】

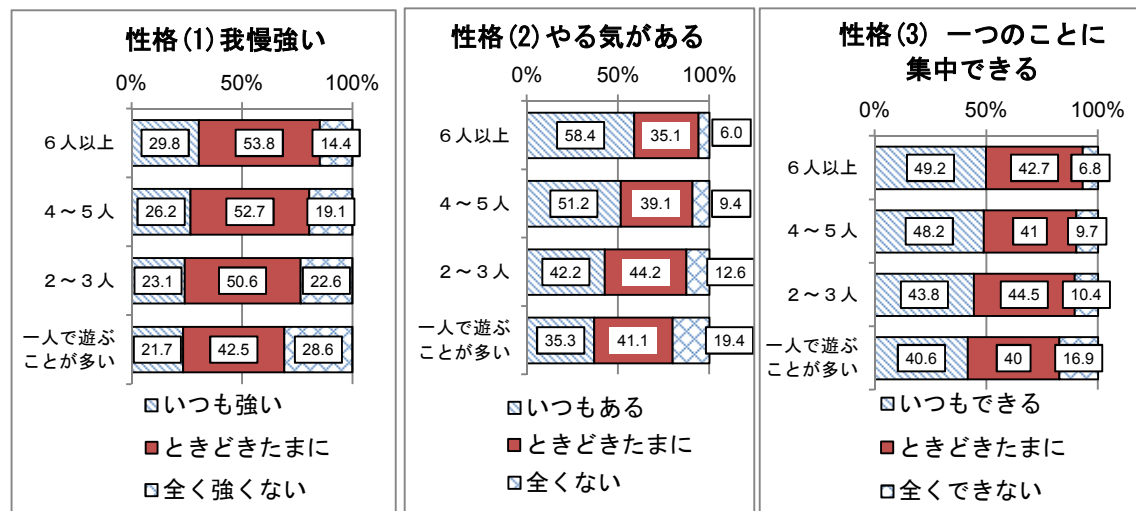
- 1 事例を読み、特定の子としか遊ばないことについての思いを4つから選び、理由をワークシートに書く。
- 2 ワークシートに書いたことを発表し、話し合う。
- 3 いろいろな特徴を持つ子どもの交友関係で気になることや友だちや兄弟間での遊びについての思いをワークシートに書く。
- 4 気になることや遊びについての思いを交流して、望ましい交友関係のポイントをワークシートにまとめる。
- 5 ワークシートにまとめたポイントを交流し合う。

【支援のポイント】

- 遊びや友だちのことについての悩みを素直に出せるような場の雰囲気をつくる
- 交友関係で気になることや遊ばせ方については、普段の様子を思い描き、思いつくまに書くようにさせる。
- 子どもにはそれぞれ個性や特質があり、遊びの様子をじっくり見ることにより、子どもの特徴に気づいていくものであることを知らせる。
- 楽しみが共有できる友だちとの遊びを通して、創造力や集中力が養われることを知らせる。
- 多くの友だちと多様な遊びをすることは大切であるが、無理強いをする子どもはストレスをためる場合があることを知らせる。

【参考資料】

◇幼児の性格と園で一緒に遊ぶ友だちの数



【幼児期における身体活動の課題と活動の意義 文部科学省 2011】

◇幼児期の集団遊びの効果

幼児期は、多くの友だちと関わりながら遊ぶことを通して、ルールを守り、自我を抑制し、コミュニケーションをとり合いながら、協調・協働する必要があることを学んでいきます。また、5、6歳になると、リーダーになる幼児も増え、グループ内での役割を意識した行動もとれるようになります。

子どもが成長していく過程においては、保護者、家族だけでなく、同世代の友だちや集団との交流が不可欠です。体を動かす遊びや運動、特にルールのある遊びやスポーツなどは、社会性を育てる契機を与えてくれます。また、体を動かして遊ぶことは、爽快感や達成感を味わいながらのストレス発散にもつながります。

【幼児期運動指針ガイドブックより抜粋 文部科学省 2011】